



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.182
2023.8.24

発行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長 安藤隆敏
h_unesco_koho@yahoo.co.jp
編集（広報委員会）阿部行俊

2023年度 通常総会を開催 新会長に 安藤隆敏氏

任期満了にともなう「正・副会長」、「監事」の選任について、役員選考委員の鈴木道子氏より選考経過が報告されました。審議後に採決が行われ、原案通りに選任されました。

一市民として、私たちができることは何かを問い続けたい

私がユネスコに関わるようになって37年となりました。小学生対象の科学教室が再スタートの頃でした。小島前会長としゃにむに走ってきたおかげで、専門外の理科を教育活動の根底に据えることができました。

しかし、コロナで随分変えさせられました。やっと、落ち着きを見せている一方で、この3年で失われたことや変更を余儀なくされたことがあまりにも多くありました。特に、私たちの活動のように人が集うことが前提のものは、多くの制約がありました。そのため、法令に位置付けされているユネスコ活動ですが、認知度が低くなったことも否めません。そこで、今月29日に市教育長及び市教育委員会指導課長と面談をして理解を深めて参ります。

また、第2次世界対戦の反省から生まれたユネスコですが、ウクライナでの惨状は、改めて国連の活動の難しさを提起しているのではないかと思います。「人の命、その国の歴史や文化遺産も破壊しても構わない。」という考えを生んだのは偏った教育です。そして、自己中心的な政治です。このような中、一市民として私たちができることは何かを問い続けていきたいと思ひます。縁あってお集まり皆さんとの繋がりを一層大切にしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

（要旨抜粋）



浜松ユネスコ協会
新会長 安藤隆敏氏

◆選任（敬称略）

【会長】安藤隆敏

【副会長】大石幹子、加藤泰弘、袴田正義、山内登志弘

【監事】伊東政好、近藤良夫、鈴木道子

◆委嘱（敬称略）

【顧問】岡本 肇、鈴木育太郎、鈴木道子、山本和子

【相談役】飯田彰一

【渉外】金子容子、下鶴志美



浜松市 天然記念物
ギフチョウ

2023年度 浜松ユネスコ協会 通常総会

5月20日(土) 於：アクトシティ浜松 研修交流センター

【来賓祝辞】

衆議院議員 塩谷 立氏(代理 青島 大氏)

『心豊かな文化創造都市はままつ』の伸展は、浜松ユネスコ協会の粘り強い活動の賜物と感謝申し上げます。

75年の伝統ある「浜松ユネスコ協会」、ユネスコ協会設立10年後の創設「ユネスコ科学教室」は、【科学する心】の育成に大きな事績を残していただいています。ありがとうございます。

併せて、平和への思いや故郷や国の誇りになるものを大切にする心を醸成していただけるものと御期待申し上げます。(一部抜粋)



【協議】

司会：加藤泰弘氏 座長：岡本 肇氏



- 第1号議案 2022年度 事業報告、収支決算報告、監査報告
- 第2号議案 新賛助会員の承認
- 第3号議案 役員を選任

(新役員のみなさん)



- 第4号議案 2023年度事業計画、収支予算計画 (別紙「総会資料」参照)

全ての報告及び提案は、可決承認されました。

内科・消化器科

西脇 医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

2023年度 科学教室

新型コロナウイルス感染予防対策での活動制約が緩和されました。しかし、感染不安が完全に拭いていない状況です。そのため、本年度も定員を例年より少ない60名として、開講準備を行いました。コロナ禍の影響が残る状況での募集でしたが、市内45校から124名もの応募がありました。厳正な抽選により60名を決定しました。

☆☆☆ 科学教室スタート ☆☆☆ 第1回「開講式&オリエンテーション」

4月29日(土) 於：浜松市地域情報センター

【来賓挨拶】

「自然の美しさを感じて 仲間と学ぶ楽しさを味わおう」

創造都市・文化振興課生涯学習担当課長 鈴木一有 氏



この教室は、1987年開校以来37年目となる伝統ある教室です。受講生のみなさんは、この貴重な機会を生かして大いに学んでほしいと思います。ここ数年はコロナ感染の影響で活動を取り止めたり、縮小したりしてきましたが、本年度は、ほぼ通常の活動に戻れると期待をしています。一方で、みなさんは、コロナウイルスが地球規模で社会全体に影響を与えるという経験してきました。そして、遺伝子や免疫力の研究など、新しい分野や領域に広がったことも知りました。改めて、自然の不思議なところを解明する科学の奥深さを感じ取ったのではないかと思います。

昆虫、植物、微生物、宇宙、岩石など、科学教室は楽しくて魅力的な体験活動が用意されています。それぞれの教室に積極的に参加して、自然の美しさを感じるとともに多くの仲間と共に学ぶ楽しさを味わってほしいと思います。

ユネスコは国際連合の専門組織です。科学教育文化の振興を通して、「人々の心に平和の砦を築く」を理念に掲げています。この教室での活動を通して、「人や自然を大切する心」「世界の平和につながる科学する心」が皆さんの中に築かれることを期待しています。

(要旨抜粋)

【ユネスコ協会 代表挨拶】

「世界の平和という視点を持って、 一人ひとりが本物の学力を伸ばそう」

浜松ユネスコ協会副会長 安藤隆敏 氏



1945年に終わった第二次世界大戦で、8000万人から8500万人の人が犠牲になりました。当時の全世界人口の2.5%です。これだけ多くの犠牲者がでたのは、人を殺す道具として、科学を間違った方向に発展させたことに他なりません。この反省から、教育科学文化の発展を通して、平和な社会を実現しようとするのがユネスコ運動です。しかし、その推進の難しさが、今、ウクライナとロシアによって示されています。

浜松ユネスコ協会は75年前の1948年4月に全国で5番目に設立されました。特に力を入れてきたのがこの科学教室です。1986年に浜松科学館が作られ、当時の市長、文化振興部長、教育委員の方々が、浜松のユネスコ活動をリードしていました。そこで、子供たちの「科学する心の原点」を育てようと考え、対象を中学生から小学生に変えました。子供たちが科学に真正面に取り組んでいくユネスコ活動は、世界にも例がないと言われています。

この科学教室では、最後に終了証書をお渡しします。その証書には、科学教室で一人一人が身に付けてほしい「科学する心」を4つの言葉で表しています。1つ目は「**素直な心の持ち主になること**」。周りの「人・もの・こと」に対して五感を研ぎ澄ましてください。そして、ユネスコの会員であるという自覚をもって素直な心で行動してください。

2つ目は「**疑問を追究する人になること**」。身の回りには様々な不思議がありふれています。「なぜだろう。」という疑問をもって調べてみるということが科学です。科学教室で学んだことを夏休みの自由研究や日常の生活に生かしてほしいと思います。

3つ目は「**地球の自然を守る人になること**」。人間が表面的な便利さを求め過ぎて、地球上にはたくさんの悲鳴が上がっています。一度壊された自然がもとに戻るには何十年、何百年、いやもっとかかります。このことは2011年の東日本大震災に伴っておきた原子力発電所の事故をみれば明らかです。地球に優しいということは、巡り巡って人間に優しいということです。

4つ目は「**世界の人々の平和を願う人になること**」。世界には、「食べ物がいないための飢え」、「薬がないための病気」、「争いによる戦争」の理由で多くの人々が死んでいます。また、言葉の読み書きができないため、貧しい生活を余儀なくしている人々がいます。一見平和な日本では想像がしにくいかもしれませんが、しかし、開発途上国と言われている国々で、中学校に通える子供は50%です。

世界の平和という大きな視点を持って、一人ひとりが本物の学力を伸ばし、日々の生活を送れるようになってください。科学の究極的な目的がここにあります。

これをしっかり胸に留めて今日からユネスコ科学教室をスタートさせましょう。



(科学教室スタッフ)

ISO9001/14001 [品質/環境]・ISO27001 [情報セキュリティ] 認証取得

 **中部印刷株式会社**

本社・工場 TEL:053-441-2431 (代) FAX:053-441-7612

<https://www.chu-bu.co.jp/>



遠州鉄道グループ

ホテルコンコルド浜松

第2回 科学教室 「チョウと植物 チョウの不思議」 ～ 私の感動を 子供たちにも ～

5月13日(土) 於：浜松科学館



今回、初めてチョウの講座のスタッフメンバーとして活動しました。準備のために、先輩スタッフとフィールドワークにも出掛けました。活動を通して、チョウは種類によって、取り巻く環境が全く違うことに驚きました。改めて周りの自然環境とつながりの強さを感じました。

食草に産み付けられた卵、幼虫、さなぎ、成虫へと姿形を大きく変化させながら成長していきます。その間には、生き抜くための生存戦略がたくさん隠されていました。見付からないように擬態するもの、毒があるように見せかけるもの、体を大きくみせようとするもの、臭いにおいを出すものなど、様々な工夫がされていることに驚きました。

また、モンシロチョウに紫外線を当てるとオスとメスの色が異なり、見分けられます。子供たちは、興味深く観察していました。今回の活動で、私は初めて出会ったり、初めて知ったり、初めて体験することが多くありました。初めてのことは、驚きが多くワクワクドキドキで感動がたくさんあります。子供たちが、もっともっと「おお」や「全然違う！」と楽しく活動しながら、たくさん感動できるように、私自身も学んで行きたいと思います。

(増井真綾)



第3回 科学教室 「微生物とホタル」 ～ 感動と知識の結びつきが 科学の礎に ～

6月17日(土) 於：浜松科学館



一人一台の顕微鏡を扱うため、初めに顕微鏡の使い方を確認しながら、道具の正しい使い方を学びました。道具を正しく扱うことは、大きな成果や感動を得ることにつながります。その後、自分一人で顕微鏡を操作して、スタッフが用意した微生物のサンプルを観察しました。初めて微生物を見る子も多く、いろいろな形や色をした小さな生物の様子に感動していました。自分で採集してきた池や田んぼの水も観察しました。今まで生活の中で意識していなかった身近なところに、多くの微生物が生活していることを知ることができました。

暗室では、スタッフからホタルの生態についての話を聞き、発光を観察することで生き物の美しさを感じました。同時に、生き物の住む環境が多くの関係性の上に成り立っていることについて考えることもできました。

一人一台の顕微鏡が用意できたため、微生物の世界を自分の操作技能で見ることができました。そのため、微生物の不思議さや美しさなど、子供たちの感動は大きくなったと思います。電気照明と違った生き物の輝きを感じる実体験もできました。この感動と知識の結び付きが、忘れられない科学の礎となることを願っています。
(鈴木謙誌)



第1回 親子公園探検隊(初夏の自然 in 佐鳴湖公園) ～ 参加者とともに発見を楽しむスタッフ ～

5月20日(土) 於：佐鳴湖公園



私たちスタッフは、親子公園探検に参加して下さる方々が安全に楽しく自然に親しんでもらうために、主催日のおよそ1週間前に下見をしています。

今回(初夏の自然)に備えての下見の様子を紹介します。初夏の佐鳴湖公園で出会える昆虫や花などをじっくりと観察しました。新緑のエノキでは、忍者のようなナナフシモドキを探しました。また、春型の翅が白いアカボシゴマダラの成虫が飛翔しているかどうかも注視しました。そんな中、水辺を飛び回るシオヤトンボ、クロイトトンボ、ギンヤンマや樹間を行き交うモンキアゲハやアオスジアゲハが確認できました。

例年、いい香りのタイサンボクの花を紹介しているのですが、今年は、まだ咲いていませんでした。その代わりに、清楚なヒオウギの仲間の花やガマズミの可愛い小花、白からピンクに花の色が変わるハコネウ

ツギなど、目を楽しませてくれる花々の位置も確認しました。2時間ほど、案内コースを巡りながら、スタッフは、主催日の内容を相談します。5月に雨が多かった今年度は、アカテガニもたくさん出現していました。小さな子供たちにとって網で獲ったり、家の人といっしょに観察したりするおもしろい素材になると確かめることができました。

このように毎回、佐鳴湖公園の観察を行うのですが、常に季節の変化とともに多くの動植物の様子を捉えることができ、私たち自身も楽しいです。この発見の楽しさを主催日に参加して下さった親子にも感じていただけたらと願っています。(鳥井みのり)



浜松市天然記念物「ギフチョウ」と浜松ユネスコ協会



1990年発行のパンフレット

特徴的で、数少ないギフチョウの生息地である。生息地情報が一部マニアの間で話題となり、乱獲が心配さる。」等がまとめられました。そこで、引佐町は、本協会の小畠逞壯前会長に「ギフチョウの生態調査」を依頼しました。ユネスコ科学教室のスタッフは渋川の枯山に調査地点を絞り、年間を通じて調査を行いました。その結果、下記のことを報告しました。

- ・ 3月に成虫が姿を見せ、食草のヒメカンアオイに産卵する。
- ・ 孵化した幼虫は脱皮を繰り返し、5齢が終齢である。
- ・ 6月には蛹となり、夏眠と冬眠を経て、翌年の3月に羽化を迎える。
- ・ 蛹の期間が長いので、特に安全な場所ではなくてはならない。
- ・ 年1化であるため、環境の影響を受けやすい。
- ・ 県内唯一の生息地とされる場所だからといって存在しているが、絶滅の危機に瀕している。



2023年4月2日生態調査会

この報告を受けた引佐町は、1990年に引佐町文化財保護条例「引佐町ギフチョウの保護に関する条例」を制定しました。また、全国2例目となる「チョウの天然記念物」について周知するためにパンフレットも作成しました。私たち科学教室スタッフは、その後も「引佐町ギフチョウ生態調査員」として調査を続けました。さらに、記録のために撮影した写真を基に「春のめざめ、チョウたちの世界」と題した写真集（浜松ユネスコ協会ホームページにて公開中）を発行すると同時に、遠鉄百貨店のギャラリーで、生体や標本等を並べて1週間ほど、同名の展示会も開催しました。

また、引佐町は1997年から1998年に「枯山散策路」を整備しました。そして、2005年の浜松市の合併に伴い、「浜松市ギフチョウの保護に関する条例」が制定され、「浜松市の天然記念物」になりました。その後、私たちスタッフは、科学教室の充実や静岡県西部地方全体のチョウの生態調査に重点をおくようになり、直接的に関わることはなくなりました。

2021年7月に「浜松市ギフチョウ保護監視活動打合せ会」にオブザーバーとして参加のお誘いを受けることとなり、再び、関わるようになりました。そして、新たなスタッフと共に生態調査の研修会も実施しました。この貴重な天然記念物が生き続けることを願っています。

(安藤隆敏)

あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数（2023.7.8現在）

賛助	法人	維持	理事
31	1	3	39
普通	学生	合計	
31	0	105	



※再生紙を使用しています。